

(様式1)

平成26年度 学校評価報告書 (学校評価結果のとりまとめ)

神戸市立西神中学校
校長：玉置 章司

項	重点目標(取組)	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価でいただいた意見等
一人一人の伸ばすに向け	・自主・自立性の育成に努める。	・道徳や人権学習を通して命の大切さ、人を思いやる心、奉仕の精神を育む教育活動を展開した。 ・96%の生徒が積極的に学校行事に取り組み92%の生徒が「学校が楽しい」と答えている(昨年同様で良好である)。	B	・道徳・人権学習の時間確保と充実を図る。	○学力の低い生徒にも目を向けて、個別に支援できるシステムづくりが必要である。 ○語彙力不足を感じる。読書指導に力を入れていただきたい。
	・基礎学力の定着を図る。	・85%の生徒が授業は「楽しく満足」と答え、昨年度とほぼ同様であった(授業アンケートより)。書く力領域も向上している。	B	・生徒の学力の実態把握をしたが、それに基づく具体的な改善計画と実行が不十分なので、PDCAサイクルの学習指導を展開する。	○読んだり、書いたりする力は備わっているが、伝えられない。 意見交換したり、共同で研究したりする教育活動を期待したい。
	・総合的な学習の時間の充実に努める。	・3年間を見通して、進路、生き方、防災学習を中心に調べたこと新聞にまとめて発表する学習を展開した。	A	・3年間を見通した計画的な総合学習を一層推進する。引き続き防災学習に重点を置き、地域と連携した体験的な学習活動を推進する。	○自分の意見を安心して発言できる教室の雰囲気づくりに努めていただきたい。
実教職員を磨き学校高める魅力と	・校内研修の充実 授業研究を実施し、教員の資質の向上を図る。	・言語活動の充実をテーマに、年間3回の授業研究を実施。毎学期、市教委より指導主事を招聘し、分かる授業、言語活動を充実させる授業について研究を行った。更に今年度は、「特別な配慮の必要な生徒への対応」もテーマに付け加え、研修を行った。	B	・全教科で「言語力の育成」に向けての取組を工夫し、生徒の授業満足度90%以上を目指す。 ・特別支援教育の見知を取り入れた授業や学級指導を展開し、より一層の「分かる授業」に取り組む。	○若い教師が増えているので、指導力が低下しないか心配である。 ○学校が若い教師を育てるシステムづくりが必要である。 ○教師を育てるには人と人との関わりが大切である。
	・OJTの推進 学校が一体となって教師力の向上に努める。	・教師力自己評価システムを取り入れ、各教員が教師としての課題を把握し、その改善を意識して校務を遂行した。 ・西神中若手塾を開催し、若手教員の研修を実施した。	B	・適材適所の校務分掌とジョブローテーション、校務の遂行を通して、中堅教員と若手教員を育てる。	○HPの情報発信は、学校の様子がよくわかりありがたい。継続をお願いしたい。 ○地域諸団体への「西神中だより」配付の仕方に工夫が必要である
	・情報発信の充実 「西神中だより」HPの積極的な活用。	・「西神中だより」を毎月発行した。学年通信、学級通信も発行し、きめ細かな情報を発信した。また、学校ホームページの更新を定期的に行い、積極的に情報発信に努めた。 ・春と秋に授業公開デイズを実施。学校行事にあわせて保護者アンケートを実施したが回収率が低く課題である。	B	・どの学年・学級も個性を大切に充実した情報発信ができるよう努力する。 ・昨年に比べ、HPの更新頻度が少なかったため、来年度は改善したい。 ・アンケートの回収期間の延長やPR方法の工夫により回収率を高める。また、多くの保護者が参加しやすいように小学校との情報交換を密にして重なりを避ける。	
特色ある神戸の教育を更に発展させる	・環境教育の充実 KEMS認証に基づく環境教育・エコ教育の充実を図る。	・KEMSに取り組むことで、環境にやさしい学校づくりを推進することができた。ゴミの分別やアルミ缶・キャップ回収などの環境保全活動を行った。 ・節電・節水等前年度比-5%を目標に使用量削減に取り組んだ。	A	・職員が作成するプリントなど不要な印刷を避け、紙資源を有効に使用したい。また、エコ教育の観点からも教師自ら進んで不要時の消灯・エアコンの停止等に取り組んでいきたい。	○リサイクルについて意識を高めていくことは、大切なこと。是非とも継続して行ってほしい。
	・防災学習の推進 防災教育、命を大切にすることを推進する。	・計画的に防災学習や震災学習に取り組んだ。 ・年間4回、避難訓練を実施した。また、ゲストティチャーを積極的に活用し、1月16日には震災を読みつなぐ会を招聘して防災学習を行った。また、地域、神戸学院大学と連携して「減災クロスロード」や「市民救命士講習」にも取り組んだ。	A	・震災後20年が経過し、教わる側も教える側も「阪神淡路大震災」の事を知らない世代が増えてきているため、ゲストティチャー等を利用し真実を伝えていきたい。 ・地域と連携した防災学習の推進をさらに図る。 ・東日本大震災復興支援活動を再開する。	○地域(防災福祉コミュニティ)と連携した防災訓練も必要ではないか。

市民が自ら学び子供の育ちを共に支える	<ul style="list-style-type: none"> 家庭地域との連携 神戸っ子応援団(美竹っ子応援団)の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 神戸っ子応援団の始動に伴い、校内にコミュニティルームを設置し、地域や保護者との連携拠点とした。 生徒会や部活動を中心に「美賀多台夏祭り」「竹の台ふれあいまつり」などの運営協力や模擬店出店により地域との交流を深めた。また小学校・地域との合同クリーン作戦を実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 多種同様の地域の組織を「神戸っ子応援団」としてまとめ、活動を充実させる。 今年度以上に地域の行事・活動に積極的に参加できるように導いていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○神戸っ子応援団事業の一環として、小・中学校と地域とが連携しておこなった清掃活動はたいへん良かった。保護者の積極的な参加が更にあったらと思った。 ○小中の連携を密にしてスムーズで効果的な教育活動を行っていただきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問や個別保護者会などを通して、家庭や地域の願い・思いの把握に努めた。また学級世話係会を年6回実施。家庭の思いや願いを把握し学校の課題について共有する場をもった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問、個別保護者会等を通して保護者の願いを汲み取るとともに、一層の信頼関係構築に努める。また行事や保護者会等は保護者が参加しやすい日時を設定し、早くから日程を知らせる工夫をする。 	

*セルの数や大きさは、変えていただいてもかまいません。